

# 「技術の背景にあるものの理解と反映～漁村を事例に考える～」

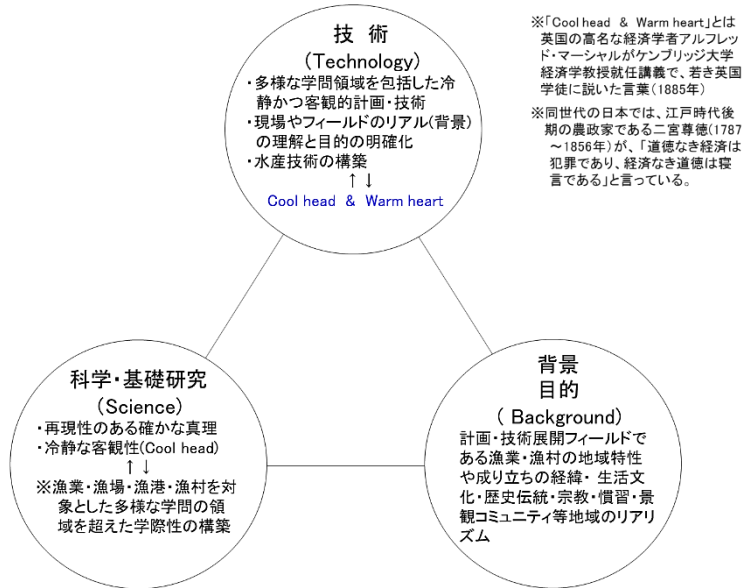
～漁業地域の風土と生業と暮らしの構造と風景の発見～

株式会社漁村計画 富田宏

## 1. Science と Technology と background について

フィールドである地域をかたちづくる背景と目的を重視しない技術はあり得ない。また、リアルな現場に向き合う場合、常識にとらわれない柔軟な発想（常識や統計データを疑うことから始まる）が重要である。更に、技術の基本となる科学・基礎研究分野には、学際的（科学的かつ文学的・民俗学的）アプローチが求められる。

技術者には、ものづくりの前と後のプロセスを大事にすることに加え、鳥の目と虫の目、すなわち、点ではなく広がりや連携、時間軸（線）を見つめる態度が求められる。いずれにせよ、真実は必ず現場にある。迷ったら、現場に行くことである。



## 2. 技術（技術士水産部門）の背景について

・漁村の特性は、極めて資源依存的事であること。日本の漁業制度区分は、漁業法、水産資源保護法を基本に、公的規制と漁業者集団による自主規制の重層的構造→持続的資源利用による継続的漁業と漁村の維持に寄与している。

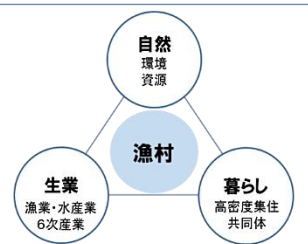
・漁村共同体は、漁場の総有管理、漁具の共有、漁港の共同利用を背景に、一般に強い共同体的性格を持つ→時には、基礎社会単位である

る漁村のガバナンス主体としての機能を発揮（※混住化や漁家率の低下にも関わらず今も共同体的性格を残す漁村が多い）。

・漁村成立の経緯と現状（内需縮小と外需の限界、魚価の低迷と国民1人当たりの消費

量の低下、漁業資源の頭打ち、漁村の過疎高齢化の進行・混住化・消滅集落の危機等）。

・漁村の最大の成立要因である**資源依存的性格**から、漁村は総じて、①自然環境(資源) ②生業(漁業・水産業、6次産業等)、③暮らし(高密度集住・強い共同体社会の形成)の3つの要素が、相補的に強い補完関係性を持って形成されている場合が一般的である。 ※特に、伝統的な中小漁村にこの特徴が顕著



### 1. 漁業生産の資源依存的性格

- ① 生産形態の多様性(労働の変則性、多様な漁業種類の混在・競合)
- ② 漁業や地域社会のモザイク的多様性
- ③ 漁場利用のあり方と漁家生活・漁村社会環境の密な関係性

### 2. 交換経済的性格

- ① 漁村社会における流通資本の強力な位置付け
- ② ヒト・漁船・水産物の漁港(市場)集中→混雑や輻輳(活気にぎわい)

### 3. 社会環境の共同体的性格

漁場共同管理・漁港や漁具の共有(生産の共同性)  
→共同体的性格が強い(地域社会の共同性)

### 4. 空間環境の高密度的性格

飛び地的・孤立的立地が多く、一般に高密度な環境形成→マイナス面とプラス面の的確な評価が必要

### 3. 現在進行形の地域社会としての漁村の問題と可能性（漁村をとりまく状況の変化）

**① 漁村と漁業**  
 ※漁村における漁業依存度の低下→漁業・水産業が漁村活性化の基盤になり得るか  
 ■漁業集落の平均漁家率=7.0%  
 ■主な産業が漁業の漁業集落比率=33.7%

・漁村の地域社会としての多様性の拡大(漁村とは…根源的問い)  
 ・漁村の混住化の進行  
 ・漁家率の低下(漁業依存度の低下)

**② 漁業経営体の専業率→核となる漁業所得+αの必要性**  
 ■漁業経営体(沿岸漁業)の専業率=39.1%  
 ・1種兼業率=33.9%、2種兼業率=27.0%

・4割の専業経営体は、漁業所得だけで生計が維持できるか？(特に若い家族層)  
 ・6割の兼業経営体の有効な兼業所得機会創出の必要性  
 ・自己実現・キャリアの活用

**③ 漁家所得と漁業所得→※漁家所得に占める漁業所得割合5割以下**

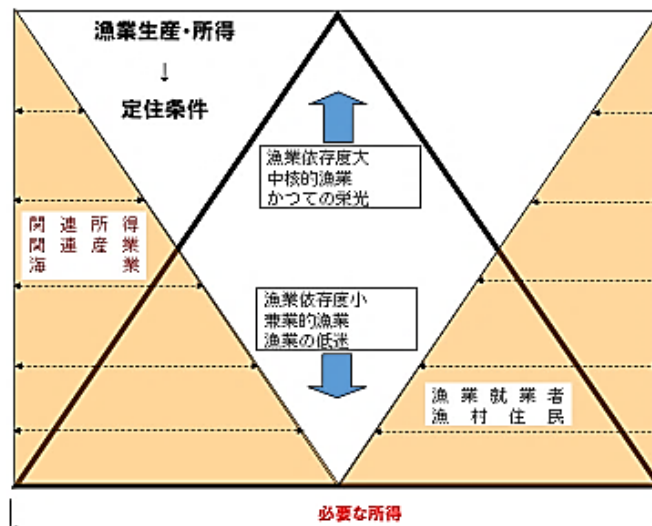
・漁家の漁業所得以外の有効所得機会  
 ・漁家世帯員の就業機会の創出(※一般勤労世帯所得の殆どは世帯主の所得)

資料一新編学体系 18 (集落計画/地井昭夫) より作成空き

図-1 漁村・漁港の形成史例(瀬戸内海にある漁村の例)

(漁村の来し方と今・・・そして将来)

### 4. 漁村振興の基本的な考え方（漁業振興+補完所得機会（定住所得条件）の確保



### 5. 具体的な漁村活性化の取り組みから学ぶ

- (1) 河浦海上コテージ (川浦熊本県旧河浦町崎津地区)：漁村地域のきっかけづくり
- (2) 和歌山県東牟婁郡太地町～森浦湾くじらの海計画と道の駅～：反捕鯨運動に直面した沿岸捕鯨のまぢの鯨と共生するまちづくりの選択
- (3) 岩手県下閉伊郡岩泉町小本地区～被災漁村低地の活用による賑わいの再生～
- (4) その他 (廃校・空き家の利活用と漁村振興・6次産業振興主体論)